

ティーチング・ステートメント

所属 薬学科

名前 水上徳美

作成日 2019年7月27日

更新日 2022年3月22日

【責任】

薬学科基礎薬学部門に所属し、専門科目である有機化学を中心とした教育・研究活動を行なっている。主たる教育活動は、化学関連科目（有機化学Ⅲ、放射化学、薬学基礎実習Ⅱなど）や介護福祉体験実習の担当、1～6年生の担任としての学習支援や就職相談である。

【理念】

学生には将来、地域の人々や医療現場で信頼される薬剤師になってもらいたい。信頼されるためには、まず専門職としての知識が必要である。他職種と連携し活躍するには、それぞれの職能を理解して尊重しあい、他職種と異なる秀でた能力を有する必要がある。薬剤師にとって、医療現場で他職種と異なるのは多くの化学的知識を有していることである。薬剤師がもつ化学の知識とは、医薬品の化学物質としての性質を理解していること、生体内の反応を化学反応として理解していること、などである。その知識を活用できるよう、人の話を傾聴できる能力も身につけてほしい。しかし、活躍するためには薬剤師免許を取得しなければならない。多様な学力をもった学生がそれぞれの目標を明確にして学習に臨んでほしい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するため、まずは薬剤師免許を取得してもらわなければならない。その学修の中で、医療現場で活用できる薬剤師として必要な知識を身につけてもらう。多様な学力を持った学生が6年間という限られた時間の中で知識を身につけてもらうために、講義時間を無駄にせず集中力をもって学習に臨める環境作りを心掛けている。

方針1「薬剤師国家試験に合格するための基礎知識を身につける」

- ・方法1：高校時代に化学を履修していない学生もいるため、まずは化学の楽しさを感じてもらえるよう身近なトピックを講義資料に取り入れている。
- ・方法2：講義終了後に復習用課題として、演習問題を moodle にアップロードしている。
- ・方法3：気軽に質問に来られるように、講義中に声を掛けて、質問をピックアップするようにしている。
- ・方法4：講義中、教室内を巡回しながら講義することで、何処に座っていても質問されるかもしれない緊張感を作り、講義に集中してもらうようにしている。

方針2「医療現場で活用できる化学の知識を身につける」

- ・方法1：有機化学は薬剤師国家試験に出題されるから仕方なく勉強しなければならないと思っている学生が少ないので、有機化学の知識は生体内で起こっている反応を理解するために必要な知識であることを認識してもらうために講義資料に生体内での反応例を提示している。
- ・方法2：生物系や臨床系の他の授業科目との関連性を伝えている。
- ・方法3：臨床現場で活躍している卒業生の「化学の知識があって他職種に喜ばれた」

または「化学の知識が不足していて困った」エピソードを伝えている。

方針3「協働の場で活躍できる力を身につける」

- ・方法1：講義開始時、大きな声で挨拶をしている。学生が大きな声で返すまで繰り返している。
- ・方法2：講義中や学生が質問に来た際に、学生の少しでも良いところを褒めて、学生自身の長所に気付いてもらえるようにしている。
- ・方法3：介護福祉体験実習を通じて、他人へ配慮することによって得られる人と人との信頼関係を実感してもらえるよう、事前事後学習で強調して伝えている。

【評価・成果】

- ・平成23年度、平成24年度北海道薬科大学 Good Lecturer 賞受賞（平成25年度を最後に廃止された）

【目標】

<短期目標>

- ・CBT模試の化学の学内平均点を全国平均以上にする。（2026年）
- ・国家試験合格率90%以上を継続できるようにする。（2026年）

<長期目標>

- ・化学と薬剤師業務の繋がりが具体的にわかる授業をつくる。
- ・他の科目の教員と科目間の繋がりの相互理解を深めて、総合的に物事を考えられる力を養成できる授業をつくる。
- ・卒業後教育として「薬剤師のための化学講座」を開講する。

【エビデンス】

1. シラバス
2. 教授会資料
3. moodle アップロード資料